

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																	
九州医療スポーツ専門学校		平成20年3月31日		赤木 恭平		〒 802-0077 (住所) 福岡県北九州市小倉北区馬借1丁目1-2 (電話) 093-531-5331																																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																	
学校法人国際志学園		昭和34年10月13日		水嶋 昭彦		〒 802-0002 (住所) 福岡県北九州市小倉北区京町3丁目9番27号4階 (電話) 093-513-5931																																	
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養		文化・教養専門課程		アスレティックリハビリテーション・ スポーツトレーナー学科		平成26(2014)年度		-		平成28(2016)年度																													
学科の目的		アスレティック・トレーナーに必要となる実践的かつ専門的な知識と技能を教授し、地域医療の一端を担い、安全なスポーツ活動のサポートを通して国民の健康増進に貢献する有能な人材を養成することを目的とする。																																					
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		日本代表専属トレーナーをはじめスポーツ現場の第一線でアスリートのトレーナーをしている講師陣により、専門的な知識や技術にとどまらず、より現場で即戦力として活躍するためのスキルを教育する。本校を卒業することによってアスレティックトレーナーやジュニアスポーツ指導員(日本スポーツ協会)、トレーニング指導者(日本トレーニング指導者協会)の受験資格が得られる。																																					
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																									
2年		昼間		※単位時間、単位いづれかに記入 94 単位		74 単位		0 単位		20 単位		0 単位		0 単位																									
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																															
120 人		98 人		0 人		0 %		7 %																															
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>4</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>4</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>4</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>25</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>卒業者に占める就職者以外の者(内訳)進学=11人、家事手伝い=1人 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 幼児体育指導企業、スポーツ施設の管理運営や指導業務受託、リハビリ特化型デイサービス、整体院</p>										■卒業者数(C)	16	人	■就職希望者数(D)	4	人	■就職者数(E)	4	人	■地元就職者数(F)	4	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	25	%	■進学者数	11	人	■その他			
■卒業者数(C)	16	人																																					
■就職希望者数(D)	4	人																																					
■就職者数(E)	4	人																																					
■地元就職者数(F)	4	人																																					
■就職率(E/D)	100	%																																					
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																					
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	25	%																																					
■進学者数	11	人																																					
■その他																																							
第三者による学校評価		<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -</p>																																					
当該学科のホームページURL		https://www.kmsv.jp/dental/																																					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>94 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>1 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>1 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>1 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>										総授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	94 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	1 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位	うち必修単位数	1 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	1 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位
総授業時数	0 単位時間																																						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																						
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																						
うち必修授業時数	単位時間																																						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																						
総単位数	94 単位																																						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	1 単位																																						
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位																																						
うち必修単位数	1 単位																																						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	1 単位																																						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位																																						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位																																						
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>2 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4 人</p>										① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計	5 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2 人																																						
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																						
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																						
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人																																						
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																						
計	5 人																																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

スポーツトレーナーの必要性・重要性の理解が進むに連れ、トレーナーに期待されるニーズもより深化している。そこでトレーナーに対する最新のニーズについて教育課程編成委員会を通して関連する企業や団体から提案してもらい、それらを学科のカリキュラム等に反映させることで職業教育の水準向上を図ることを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校は、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業、大学等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業方法の改善・工夫を含む。)に活かすことを目的に学科毎に教育課程編成委員会を設置する。委員会は6月と11月の年2回の開催を原則とし、業界における人材の専門性等の動向、国または地域の産業振興の方向性、実務に必要な最新の知識・技術・技能等について審議する。委員会から提出された提言は、学科会議において協議し、教育課程に反映させるように努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
吉井 剛	福岡障害者スポーツ指導者協議会 (トレーナー部会 部長)	令和5年4月1日 ~令和7年3月31日(2年)	①
長瀬 亮昌	株式会社WAF(代表取締役)	令和5年4月1日 ~令和7年3月31日(2年)	③
浪尾 敬一	九州医療スポーツ専門学校(副校長)		—
味村 吉浩	九州医療スポーツ専門学校(副校長)		—
桑野 幸仁	九州医療スポーツ専門学校(教務部長)		—
寺本 敦司	九州医療スポーツ専門学校(アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科学科長)		—
松岡 沙也香	九州医療スポーツ専門学校(アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員)		—
川上 吉晃	九州医療スポーツ専門学校(アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員)		—
都地 英雄	九州医療スポーツ専門学校(アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科教員)		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、11月)

(開催日時(実績))

令和5年度第1回 令和5年6月5日 17:00~19:00

令和5年度第2回 令和5年11月13日 17:00~19:00

令和6年度第1回 令和6年6月17日 17:00~19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会で提起された主な意見

(令和5年度第1回)

- ①(トレーニング指導者実習)(スポーツトレーナー実習1～6)動作分析機器、解析装置、測定機器などを導入し、測定・評価・分析までを実施して、トレーニングプログラムの立案に至る講義展開を検討すべきであると考えられる。
- ②(スポーツトレーナー実習1～6)(スポーツ競技各論)まずは、情報端末デバイスを使用する機会を増やしていく必要があると考えられます。授業内でレポート作成、発表資料の作成といった講義であり、情報端末デバイスに触れる講義を検討すべきであると考えられる。
- ③(トレーニング指導者実習)(スポーツトレーナー実習1～6)現在、学生らの情報入手方法に限られた分野でのみ行われていると考えられる。今後、情報入手をさまざまな方法でアンテナを立たせていけるようなきっかけを検討すべきであると考えられる。

(令和5年度第2回)

- ①(コーチング学)(トレーナー実習1)実習参加におけるオリエンテーションの充実/スポーツトレーナー実習に参加するにあたり、実習の意義を改めて学生らに説明していけるようなオリエンテーションが必要と考える。
- ②(トレーナー実習2～6)アスレティックトレーナー能力チェックシートの作成/スポーツトレーナー実習への参加にあたり、個々の学生が獲得しているスキルを明確化することが必要と考える。学生個人スキルチェックシートを作成し、その資料を参考に実習内容を検討する資料があると考えられる。
- ③(トレーナー実習1～6)気づきのある授業内容の構築/スポーツトレーナー実習を実施するにあたり、その実習を通して、学生自身ができること、できないことを明確化させていくことが必要であると考えられる。

(令和6年度第1回)

- ①(トレーナー実習1～6)スポーツトレーナー実習プログラムの検討について/新カリキュラム導入に向けて、新たな実習プログラムをどのように展開していくのか。日本スポーツ協会より指定されている内容を運営していくことが望まれる。また、内容を踏まえた上、さらなる現場実習先を見つけていくことが必要である。まずは、現場実習先獲得を検討していくことが望まれる。
- ②(トレーナー実習1～6)スポーツトレーナー実習先の外部委託の検討について/現場実習運営について、学科教員だけでは運営が非常に難しいものがある。そのため、本会議でも挙げられていたように理学療法学科、作業療法学科、柔道整復学科の臨床実習を参考にしていくことが望まれる。また、学科教員だけではなく、卒業生であり、他の実習運営を引き受けてくれるATの採用を検討していくことも考慮していただきたい。
- ③(教育課程外)スケジュール表のさらなる活用方法についての検討について/スケジュール表について、さらなる活用を目指して継続していくことが望ましい。例えば、学生の計画と行動をいかに結びつけていくのか。そのために必要な対応を今後も検討していくこと。

提起された意見に対する対応(反映させた授業科目等)

(令和5年度第1回)

- ①(トレーニング指導者実習)(スポーツトレーナー実習1～6)今回、今後の授業展開を検討していく上で、動作分析機器、解析装置、測定機器などの購入を検討していく。今後、業界のニーズを把握していき測定・評価・分析までを実施し、トレーニングプログラム立案までできるような講義展開を検討していきたい。
- ②(スポーツトレーナー実習1～6)(スポーツ競技各論)学生に対し情報端末デバイスを使用していく授業内容を検討していきたい。Word、Excel、PowerPointなどを用いて、発表資料の作成、データ分析をしていくようなカリキュラムを検討していきたい。また、次年度からは新入生に情報端末デバイスの使用を案内し、事前購入していくような流れを作っていく。
- ③(トレーニング指導者実習)(スポーツトレーナー実習1～6)情報収集能力を高めていくために様々な方法を用いて、収集していく能力を高めさせたい。そのため、学生らにきっかけを与えていけるような話題提供をしていきたい。授業内はもちろんであるが、授業外でも学生らに意識づけしていけるような習慣を身につけさせていきたい。また、正しい情報の取り捨て選択をしていける能力育成を検討すべきであると考えられる。

(令和5年第2回)

- ①(コーチング学)(トレーナー実習1)実習参加におけるオリエンテーションの充実/スポーツトレーナー実習の実施意義について、改めて学生らに把握させていくことを検討していく。また、まずは実習に参加する前段階として必要なこと(挨拶、身だしなみ)の必要性を説明していく。
- ②(トレーナー実習2～6)アスレティックトレーナー能力チェックシートの作成/実習に参加するにあたり、学生が獲得しているトレーナースキルを明確化していく。スポーツトレーナー実習担当者が受け入れをする学生らが何ができるのかを理解していただけるようにする。適宜、スポーツトレーナー実習でその資料を参考にいただき、参加学生らがアスレティックトレーナーとしての経験を積ませていただける環境を構築していく。
- ③(トレーナー実習1～6)気づきのある授業内容の構築/スポーツトレーナー実習(特に経験型)への参加により、自分に何ができていて、何ができていないのかを気づいていけるようなスポーツトレーナー実習の展開を検討していきたい。その自分自身の現状を把握することで、スポーツトレーナー実習の経験から学内の授業に対する意識を変化させていけるようにしたい。

(令和6年度第1回)

①(トレーナー実習1～6)新カリキュラムでの養成校認定を目標として、カリキュラム作成を目指していきたい。また、本会議でも意見が出ていましたが、学生らの現場力向上には経験値を高めていくことが必要不可欠だと考えている。そのため、現状を含めて現場実習先を検討していくことを継続していきたい。そして、新カリキュラムで示されているATとしてのスキルを獲得していくのはもちろんであるが、それ以外でも習得させなければならないスキルも検討していきたい。

②(トレーナー実習1～6)現場実習運営については、他学科で実施している臨床実習を参考にしていきたい。また、学科教員だけでは現場実習を展開していくことは難しいため、卒業生の動向であり、北九州市近隣でAT活動をしている人たちの動向も調査していく。

③(教育課程外)スケジュール表においては、前向きに取り組んでいる学生が多いのが現状ではある。今後も継続して、前向きに取り組んでいけるような対応を継続していきたい。本格的には5月からスケジュール表が導入され、学生には習慣化されている。今後は、学生たちが取り組むスケジュール表の計画がいかにかに学校生活の学習に反映させていけるような流れをさらに追求していきたい。また、他の学生がクラスメイトのスケジュール表を確認することで、学生間交流を深め時間の使い方、勉強方法などに新たな視点を生み出していける取り組みをしていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習・演習等にあたる専任教員には、前線で活躍している臨床経験豊かなスポーツトレーナーを選定する。専門科目の授業の一部を担当する外部講師の選定に当たっては、スポーツトレーナーとしての実践経験豊富な者を選定する。総合実習をはじめ、実技・演習などは、できる限り実践の場ないしは実践を想定した環境にて行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業等と連携して行う科目として、コンディショニング1・3が挙げられる。実習では、スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして指導経験豊富な教員に出講依頼している。担当教員とは、業界で必要とされる人材、今後の動向についての意見交換を行っている。将来、学生らがスポーツ現場で必要とされる人材の育成を第一の目標として、企業等との連携を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
コンディショニング3	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	コンディショニング方法を実習、実技を通して講義で得た知識をさらに深くし、体得することにより予防的アプローチとして実践で使い指導できるようになることをねらいとする。	有限会社ケイ・トレーナーズ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に基づき、「①専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修」および「②授業および学生に対する指導力等を修得・向上するための研修」の機会を確保する。なお、「①専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修」は、トレーナー活動の現場において必要となる実践的な知識および技術で、インシデントおよびアクシデントに発展しない危機管理に重点を置く。また、「②授業および学生に対する指導力等を修得・向上するための研修」は、教員としての自覚を持ち、より実践的な知識および技術を持つことはもちろん、倫理観念を持ったアスレティックトレーナーの育成が行える指導力を向上させることを目的とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第12回日本アスレティックトレーニング学会学術大会	連携企業等:	(一社)日本アスレティックトレーニング学会
期間:	令和5年7月8日(土)～9日(日)	対象:	学科専任教員1名
内容:	VUCA時代のアスレティックトレーニングを問うー予測困難な未来を拓く創造と革新とはー		
研修名:	JFAフィジカルフィットネスリフレッシュ研修会	連携企業等:	(公財)日本サッカー協会
期間:	令和6年2月29日(木)	対象:	学科専任教員1名
内容:	ハムストリング肉離れ予防		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: JSPO-AT 専門科目実技確認テスト検定員説明会	連携企業等: (公財)日本スポーツ協会
期間: 令和5年7月18日(火)	対象: 学科専任教員2名
内容: JSPO-AT 専門科目実技確認テスト検定員説明会	
研修名: 第14回医療とスポーツのシンポジウム	連携企業等: 九州医療スポーツ専門学校
期間: 令和6年1月30日(火)	対象: 学科専任教員1名
内容: WBC JAPAN代表コーチの白井一幸氏による特別講演	

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第35回日本臨床スポーツ医学会学術集会	連携企業等: (一社)日本臨床スポーツ医学会
期間: 令和6年11月16日(土)～17日(日)	対象: 学科専任教員1名
内容: スポーツ医学の社会貢献	
研修名: 日本スポーツ整形外科学会2024(JSOA2024)	連携企業等: (一社)日本スポーツ整形外科学会
期間: 令和6年9月12日(木)～13日(金)	対象: 学科専任教員2名
内容: 「學」ースポーツ医科学の学び舎ー	
研修名: 第13回日本アスレティックトレーニング学会学術大会	連携企業等: (一社)日本アスレティックトレーニング学会
期間: 令和6年9月14日(土)～15日(日)	対象: 学科専任教員1名
内容: アスレティックトレーニングを支える 経験・研究・教育の連携	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: JATI認定トレーニング指導者養成校・養成機関説明会	連携企業等: 特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会
期間: 令和6年4月19日(金)	対象: 学科専任教員1名
内容: 養成校・養成機関制度の概要 ほか	
研修名: FD委員会	連携企業等: 九州医療スポーツ専門学校
期間: 令和6年4月～令和7年3月	対象: 学科専任教員1名
内容: クラス運営のための学生心理について学ぶ	
研修名: 2024教職員研修	連携企業等: 学校法人敬心学園職業教育研究開発センター
期間: 令和6年4月～令和7年2月20日(木)	対象: 学科専任教員2名
内容: 担任業務や通常授業での教授法 ほか	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を推進するために、学則第30条の(7)および細則第76条に規定した「学校関係者評価委員会」を設置した。この委員会は、関係団体役職員・高等学校の校長・同窓会役員の学外関係者のみで組織し、学内組織である「自己点検・自己評価委員会」から出された点検および評価結果をもとにさまざまな方面から検討・協議することを責務とする。本校は、学校関係者評価委員会からの提言等をもとに、より良い学校を訴求していく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、特色、将来構想
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、処遇、意思決定、情報システム
(3)教育活動	業界ニーズ、到達レベル、カリキュラム、評価体制、評価基準、指導体制
(4)学修成果	就職率、資格取得率、退学率、社会的活動
(5)学生支援	就職・進学指導体制、相談体制、経済的支援体制、生活環境、保護者連携他
(6)教育環境	施設・設備、学外実習等、防災体制
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考基準、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	設置基準、個人情報、自己評価と公開
(10)社会貢献・地域貢献	学校教育資源の活用、ボランティア活動
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で提起された意見

- ①(基準2)意思決定や承認のスピードを上げるためにDXを図るべきである。
- ②(基準2)360度評価(上司、部下、同僚など複数人の評価者で従業員を評価する手法)を取り入れるのが良いのではないか。
- ③(基準3)学校と実習先との連携をもっと図るべきである。
- ④(基準4)卒業率が低い学科もあるため、卒業率を上げるための対策を講じるべきである。
- ⑤(基準4)各学科で成績低迷者への学習対策を練る必要がある。
- ⑥(基準4)卒業後・就職後の情報等を在校生に伝えることができるシステムづくりをするべきである。
- ⑦(基準5)ミスマッチのない進路実現を目指すための取り組みが必要である。
- ⑧(基準5)歯科衛生学科の「非認知能力ベースライン調査」の効果を確認し、必要であれば他学科で取り入れても良いのではないか。

提起された意見に対する対応

- ①(基準2)従来の意思決定システムや承認手続きが根付いて一気にDXを図ることは難しいが、優先順位の高いものからDXを図る。
- ②(基準2)評価システムは採用しているものの360度評価にまでは至っていないので、今後は評価者を増やして360度評価に近づけていく。
- ③(基準3)実習終了後に実習先を招いた学生による報告会を開催するなどして、実習先との連携を図るようにする。
- ④(基準4)外部から専門的な講師を招き、学科教員に対して退学者を減少させるセミナーを開催する。
- ⑤(基準4)最終学年にとどまらず、1、2年次から補講を実施する。
- ⑥(基準4)卒業生の就職先における状況等を、オンラインなどによって在校生に伝える機会を設ける。
- ⑦(基準5)オープンキャンパスに際してはもとより、入学後においても学生が目指そうとしている職業の理解を深める機会を設ける。
- ⑧(基準5)非認知能力ベースラインは福岡県歯科衛生士教育連絡協議会において文部科学省の事業として実施されているもので、本校が取り入れるとなると相当の費用を要することからこれに代わるものがないか模索する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
谷川 陽一	福岡県立小倉商業高等学校(校長)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	地域の教育関係者
棟安 正人	北九州市ホテル協議会(会長) 北九州市小倉旅館ホテル組合(副組合長)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	地域団体 役員
佐藤 毅	公立大学法人九州歯科大学 歯学部 口腔保健科 歯科衛生士育成ユニット(教授)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	関係団体 役員
大森 弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会(会長)	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	卒業生 同窓会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.kmsv.jp/publication/>

公表時期: 令和6年6月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では平成22年度より学生による授業評価を実施し、その結果を担当教員にフィードバックすることをもって自己点検・自己評価と位置づけてきたが、今後はそれを前述「4. (2) 専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠した内容にまで拡大し、そのすべての結果を本校の学校関係者評価委員会に提示する。学校関係者評価委員会から得られた提言に対する本校および学科の見解や対応等については、本校のホームページで企業等の学校関係者に対して情報の提供を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、学校の特徴、施設設備、教育目標および授業実施計画、校長名、所在地、連絡先等、その他の諸活動に関する計画
(2) 各学科等の教育	学科紹介、資格取得内容、シラバス、募集要項(選考方法と募集定員)
(3) 教職員	教育情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組、実技・実習等の取組、就職支援等の取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	指定寮およびアパート等紹介、学生相談、就学支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	自己点検自己評価・学校関係者評価委員会評価
(10) 国際連携の状況	外国の学校等との交流状況
(11) その他	国家試験合格率

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.kmsv.jp/publication/>

公表時期: 令和6年9月4日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 アスレティックリハビリテーション・スポーツトレーナー学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			スポーツ社会学	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツ指導者として、「スポーツの意義と価値」について改めて考えてみる。 ■スポーツ指導者として、「スポーツ権」について学習していく。 ■スポーツ組織の運営、あり方について学習し、安定した組織運営のマネジメントを学習していく。 	1前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツ倫理学	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツ指導者の現場において、起こりうる倫理的問題について学習していく。 ■スポーツ指導者の反倫理的言動が何かを学習し、その言動がアスリートなどにどのような影響を与えていくのかを学習していく。 ■スポーツインテグリティとは何かを学習し、スポーツ界全体を見直すために必要なものを学習していく。 	1後	16	1	○			○		○		
3	○			スポーツ指導学	<ul style="list-style-type: none"> ■日本スポーツ協会公認スポーツ指導者として、安全なスポーツ環境を構築・問題発生時の対処法の流れについて学習していく。 ■各年代（ジュニア期、中高年）におけるコーチングの留意点、運動プログラム作成に必要なことを学習していく。 ■ハイパーパフォーマンスとは何かを理解し、それを実践していく上で、コーチに必要なものは何かを学習していく。 	1前	30	2	○			○		○		
4	○			コーチング学	<ul style="list-style-type: none"> ■公認スポーツ指導者に最も必要とされる基本的な思考や態度・行動について学習し、グッドコーチに求められる人間力を学習していく。 ■コーチに求められる役割、知識・スキルについて学習していく。 ※コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル、ファシリテーションスキルなど 	1後	30	2	○			○		○		

5	○			トレーニング科学1	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツトレーニングの基本的な考え方・理論体系について学習していく。 ■トレーニングの原理・原則（全面性、意識性、斬新性、個別性、反復性）について学習していく。 ※全面性、意識性、斬新性、個別性、反復性 ■トレーニングの種類について学習していく。 ※形態別分類、体力要素による分類 	1後	30	2	○				○			○	
6	○			保健体育理論1	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な運動指導を行えることが、今後の健康維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。	1前	32	2	○				○			○	
7	○			保健体育理論2	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。これからの子どもから高齢者の特徴について学習し、それらの人々を健康維持増進に導いていける指導者養成が必要である。それに伴う必要な知識を実技を交えて学習していく。	1後	32	2	○				○			○	
8	○			スポーツ競技各論	<ul style="list-style-type: none"> ・アスレティックトレーナー実技試験の試験科目になりうる競技種目を中心に競技特性・ルール・起こりやすい傷害・トレーニング方法について学習していく。 ・実際のシチュエーションを想定したトレーニングプログラムの構築を行う。 	1前	30	2	○				○				○
9	○			スポーツ医学1	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツと健康とのかかわりについて学習していく。 ■アスリートの健康管理について学習していく。 ■アスリートの内科的障害について学習していく。 ■女性アスリートの障害と対策について学習していく。 ■外傷・障害の予防について学習していく。 ■コンディショニング、救急蘇生法について学習していく。 	1前	30	2	○				○				○
10	○			スポーツ栄養学1	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツ指導の現場において、起こりうる倫理的問題について学習していく。 ■スポーツ指導者の反倫理的言動が何かを学習し、その言動がアスリートなどにどのような影響を与えていくのかを学習していく。 ■スポーツインテグリティとは何かを学習し、スポーツ界全体を見直すために必要なものを学習していく。 	1前	16	1	○				○				○

11	○		スポーツ心理学1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機づけと競技成績との関連性を把握し、動機づけを高める方法などについて学習していく。 ■ スポーツ活動や運動のパフォーマンスを促進するために必要不可欠な心理的スキルを学習していく。 ■ メンタルトレーニングの基礎を学習していく。 ■ プレッシャーやあがりが発生するメカニズム、その対処法の基礎を学習していく。 	1前	24	1	○				○			○
12	○		トレーナー基礎演習	他教科の復習も踏まえ、解剖学を中心にスポーツ指導者として必要な基礎知識を身につける事と身につけた知識をアウトプットすることを目的とする。	1後	30	2	○				○		○	
13	○		アスレティックトレーナーの役割	スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解し、アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど各分野の専門家と連携をとって選手をサポートするなど現場で活躍する上で必要な知識および社会的秩序や倫理観を身につけることをねらいとする。	1前	30	2	○				○		○	
14	○		トレーニング科学2	<ul style="list-style-type: none"> ・ トレーニングの基本的概念 ・ トレーニングの種類と科学的基礎 ・ トレーニング効果の評価 ・ トレーニングと性 ・ トレーニングと発育・発達 ・ トレーニングと老化 ・ トレーニングと栄養 ・ 疲労と疲労回復 ・ オーバートレーニング 	1後	30	2	○				○		○	
15	○		トレーニング指導者実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各マシントレーニングの使用法・注意点を理解し、正しいフォームを身につける。 ・ 対象者に対し、効果的かつ安全に指導ができるようになる。 ・ トレーニング指導者として、安全かつ効果的にトレーニング指導ができるようになる。 	1前	40	1				○	○			○
16	○		バイオメカニクス	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイオメカニクス基本理論（筋の仕組みと働き／筋活動のエネルギー供給・運動の指令と調節・身体の構造と運動・身体運動の力学的基礎） 運動の力学的基礎） ・ バイオメカニクスの実践－各種動作のバイオメカニクス－（歩行動作／走動作・跳動作・投動作・蹴動作・滑動作・泳動作・漕動作） 	1後	30	2	○				○			○
17	○		検査と測定の手法1	アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。	2前	20	1	○				○			○

18	○		検査と測定の手法2	アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。	2前	20	1	○			○	○	○
19	○		運動処方論	健康の維持・増進のための運動が行われている。しかし運動強度、頻度、時間など実施方法を間違えると健康の維持どころか健康を害する。正しい運動の処方方法を見つけ、運動処方の理論と実際について実習を含めて学んでいく。	2後	30	2	○			○	○	
20	○		体力測定法	健康・体力に関連するさまざまな体力要素（身体蘇生、全身持久力、筋力・筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性）について、測定方法の実習とその評価を行い、スポーツ指導者としての基礎的能力を養う。	2前	16	2	○			○	○	
21	○		テーピング・手技療法実習	スポーツ指導者に必要なテーピングとストレッチング（パーソナル）を習得する。	1前	30	1				○	○	○
22	○		トレーニング指導者理論1	一般人からトップアスリートまで、あらゆる対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導するための知識を身につけることを目標とする。	1前	30	2	○			○	○	○
23	○		トレーニング指導者理論2	トレーニング指導者として、安全かつ効率的にトレーニング指導ができるようになる医学的基礎を構築する。	1後	30	2	○			○	○	
24	○		運動生理学	<ul style="list-style-type: none"> ・筋収縮とエネルギー供給 ・筋繊維の種類とその特徴 ・神経系による運動の調節 ・運動と呼吸 ・運動と循環 ・運動と内分泌 ・運動と代謝 ・身体組成と肥満 ・運動時の水分・栄養摂取 ・運動と体温調節 ・運動と環境 ・運動と発育・発達 ・運動と老化（加齢） 	1前	30	2	○			○	○	
25	○		運動器の解剖と機能1	アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、支配神経と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。	1前	20	1	○			○	○	○

26	○		運動器の解剖と機能2	アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、支配神経と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。	1 前	20	1	○			○			○
27	○		運動器の解剖と機能3	アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ傷害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。 そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、支配神経と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。	1 後	20	1	○			○			○
28	○		スポーツ栄養学2	・アスリートの身体組成、からだ作りとウェイトコントロール ・トレーニングスケジュール、競技特性と食事、コンディショニングと栄養摂取、水分補給 ・栄養欠陥に基づく疾病と対策 ・特殊環境下における栄養ケア ・サプリメントの利用時の留意点 ・アスリートの栄養教育	2 後	30	2	○			○			○
29	○		スポーツ心理学2	1) スポーツと認知、2) 動機づけ、3) 目標設定、4) 運動の学習、5) スポーツと発達、6) 競技者の性格と態度、7) パーソナリティ、8) メンタルトレーニング、9) スポーツカウンセリング	2 前	30	2	○			○			○
30	○		救急処置	救急処置の基本的知識を学ぶことを目標とする。	1 後	30	2	○			○		○	
31	○		A T 概論 1	運動器の解剖と機能を習得する。	2 前	30	2	○			○		○	
32	○		A T 概論 2	S A Q トレーニングを状況に応じて適切に指導することができる。	2 前	30	2	○			○		○	
33	○		A T 概論 3	A T 理論試験対策で救急処置と解剖学を学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする。	2 前	30	2	○			○		○	
34	○		A T 概論 4	日本スポーツ協会認定 A T 理論試験においてのスポーツ医学範囲の出題傾向・理解を深める。	2 後	20	1	○			○		○	
35	○		A T 概論 5	A T 理論試験対策でアスレティックリハビリテーションを学ぶことで、トレーナーとしての知識を高めることを目標とする。	2 前	30	2	○			○		○	

36	○			スポーツ動作の観察と分析	アスレティックトレーナーが評価で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、6つのスポーツ動作についてバイオメカニクス、動作に影響を与える機能的と体力的要因を説明できる能力を養うことを目的とする。	2前	20	1	○			○								
37	○			コンディショニング1	各競技におけるコンディショニング方法を身につけ、プログラム立案や障害予防のための環境整備について学ぶことをねらいとする。	2前	30	2	○			○							○	
38	○			コンディショニング2	各競技におけるコンディショニング方法を身につけ、プログラム立案や障害予防のための環境整備について学ぶことをねらいとする。	2前	30	1				○	○						○	
39	○			コンディショニング3	コンディショニング方法を実習、実技を通して講義で得た知識をさらに深くし、体得することにより予防的アプローチとして実践で使い指導できるようになることをねらいとする。	2前	30	1				○	○						○	○
40	○			ジュニアスポーツ理論	・子どもたちの安心し、成長に合わせたスポーツ環境を提供していく上で、必要なものを学習していく。 ・生涯にわたりスポーツに親しむ土壌を作る上で、動きの発達、心理、栄養、医学といった方面の知識を習得していくことを目標としていく。	2後	30	2	○				○						○	
41	○			ジュニアスポーツ実技	理論で学習した内容を踏まえ、子どもたちの運動遊びの選定方法を知り、指導場面に活かせるようになる。そして、安全管理の下、子どもたちが主体的に取り組むことができるようコーチングスキルの獲得を目指していく。	2後	16	1					○	○					○	
42	○			SAQトレーニング実習	・NPO法人日本SAQインストラクターレベル1資格取得を目標とする。 ・S=Speed:スピード(重心移動の速さ)、A=Agility:アジリティ(運動時に身体をコントロールする能力)、Q=Quickness:クイックネス(刺激に反応し速く動きだす能力)の理論を実技を通して学習していく。	1前	30	1					○	○					○	
43	○			アスレティックリハビリテーション1	・アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。 ・アスレティックリハビリテーションの中で最も主要となる各種エクササイズの基本理論と方法について学び、補助的な手法となる物理療法の基礎理論を学ぶ。 ・対象者に妥当なエクササイズ指導と物理療法の正しいアドバイスができるようになることをねらいとする。	2前	30	2	○					○						○

44	○		アスレティックリハビリテーション2	<ul style="list-style-type: none"> ・検査・測定の評価とアスレティックリハビリテーション基礎知識の知識統合の講義となる。 ・例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識と技術の習得をねらいとする。 ・例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。 	2前	30	2	○			○			○
45	○		アスレティックリハビリテーション3	<ul style="list-style-type: none"> ・検査・測定の評価とアスレティックリハビリテーション基礎知識の知識統合の講義となる。 ・例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、対象者に正しい指導ができる知識と技術の習得をねらいとする。 ・例題疾患の内容を応用し、他疾患についても正しい指導が実施できるようにする。 	2前	30	2	○			○			○
46	○		スポーツ外傷と障害1	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外傷・障害総論 ・上肢のスポーツ外傷 ・体幹のスポーツ外傷 ・整形外科的メディカルチェック 	1前	30	2	○			○			○
47	○		スポーツ外傷と障害2	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢のスポーツ外傷・障害 ・重篤な外傷 ・年齢・性別による特徴 ・整形外科的メディカルチェック 	1前	30	2	○			○			○
48	○		スポーツ医学2	<ul style="list-style-type: none"> ・アスリートに見られる内臓器官などの疾患 ・感染症に対する対応策 ・アスリートに見られる病的現象・特殊環境のスポーツ医学 ・年齢・性別による特徴 ・特殊環境のスポーツ医学 ・内科的メディカルチェック ・ドーピングコントロール 	2前	30	2	○			○			○
49	○		救急処置実習	日本赤十字社救急法救急員の資格取得を目標とする。	1後	30	1				○	○		○
50	○		トレーナー実習1	スポーツ現場の見学を通してアスレティックトレーナーとして必要な資質を身につける事を目的とする。	1前	30	1				○		○	○
51	○		トレーナー実習2	アスレティックトレーナーとして検査・測定と評価、アスレティックリハビリテーションプログラムができるようになる。	1前	30	1				○		○	○
52	○		トレーナー実習3	スポーツ現場でのアスレティックトレーナーの業務を実践できるような基礎づくり。	1後	30	1				○		○	○
53	○		トレーナー実習4	アスレティックトレーナーの7つの役割を状況に応じて適切に行うことができる。	2前	30	1				○		○	○
54	○		トレーナー実習5	アスレティックトレーナーの7つの役割を状況に応じて適切に行うことができる。	2前	30	1				○		○	○

55	○		トレーナー実習6	アスレティックトレーナーの7つの役割を状況に応じて適切に行うことができる。	2前	30	1				○	○	○			
56	○		トレーナー応用実習1	本講義では、スポーツ現場での傷害発生時の応急処置に必要なスペシャルテストなどの評価能力と応急処置、テーピングを身につける事を目標とする。	2後	30	1				○	○	○			
57	○		トレーナー応用実習2	アスレティックトレーナーとして現場に必要なスキルを学ぶ事を目的とする。	2後	30	1				○	○	○			
58	○		トレーナー応用実習3	アスレティックトレーナーとして現場に必要なスキルを学ぶ事を目的とする。	2後	30	1				○	○	○			
59	○		トレーナー応用実習4	本講義では、アスレティックトレーナーとしての適切な傷害の初期評価及び応急処置ができる事を目的とする。	2後	30	1				○	○	○			
60	○		生涯スポーツトレーナー実習1	障害者のトレーニングを対象者の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる。	2前	16	1				○	○	○			
61	○		生涯スポーツトレーナー実習2	障害者のトレーニングを対象者の状況に応じて安全かつ効率的に指導できる。	2後	16	1				○	○	○			
62	○		フィットネスエクササイズ	有酸素運動の特性と効果を理解し、エアロビックダンス及びアクアビクスの基礎動作を習得する。また音楽に合わせた指示出しや指導ができるようになる。	2前	30	1				○	○				○
合計					62	科目	94									単位(単位時間)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全ての授業科目における単位を修得。		1学年の学期区分	2期
履修方法：本校に登校した上で、講義、実技、演習および実習を履修する。		1学期の授業期間	24週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。